



Q

第6次鶴ヶ島市総合計画策定の方向性

うちの よしひろ
内野 嘉広 議員



A

社会状況に対応したまちづくりを進めていく

問 人口減少対策の観点からの都市政策について。

答 人口減少社会を見据えた都市政策を推進していくため、大きな指針となる立地適正化計画の策定を進めている。

今後の課題は、人口減少と少子高齢化の進行に対応し、都市の活力の衰退を防止しながら、必要な都市機能を維持することである。

3つの鉄道駅を中心にコンパクトにまとまっている市街地と、圏央鶴ヶ島IC周辺地域を市の強みとして最大限活用することが重要である。併せて、公共交通ネットワークの強化を図り、その利便性を向上させることも必要である。一方で、公共施設の維持、再編に対応していく必要がある。

問 高齢化の進展等に伴う交通政

策について。

答 超高齢化しつつある中、高齢者の移動手段の確保は非常に重要なものとなっている。高齢者が外出したくなる街を目指し、つるバス・つるワゴンの運賃体系について前向きに検討を進めている。つるバス・つるワゴンが、高齢者にとって、より便利で、安心して利用できる公共交通となるよう努めていく。



市役所庁舎

Q

2040年までの鶴ヶ島市政の行程

はせがわ きよし
長谷川 清 議員



A

第6次鶴ヶ島市総合計画で10年間の施策等を検討する

問 人口減少問題の危機を迎える2040年に備え、今、鶴ヶ島市は何をしなければならぬのか。

答 歳出の抑制、年齢構成の是正、税源の確保を中心に、第6次鶴ヶ島市総合計画の中で検討していく。

問 職員の英知を結集させ、2040年の市の姿を想定し、それに

対応する確かな施策の実施が重要であると考えるが、どのような姿が見えているのか。財政規模は。

答 財政フレームは毎年度見直しをしているが、財政の推計期間は5年が一般的であるので、それ以降は示すことができない。

問 年少人口の減少率が埼玉県内

の市でワースト1である。どのように対応しようとしているのか。

答 企業誘致や子育て支援等を行っているが、第6次総合計画の中でも真剣に考えていきたい。

問 都市計画決定してから50年以上も放置している都市計画道路は、どうするつもりなのか。

答 今後どのようにするかは、来年度、しっかりと検討したい。

問 齊藤市長の就任2年目になるが、いまだに市の重要課題の対策が立てられていない。市長は、この2年の浪費をどう考えているのか。

答 今、職員は一生懸命働いている。私は、それを浪費という言葉では表したくない。